

16. 建設



業界動向

国内市場の動向～民間工事の受注が低迷

2020年度第3四半期迄の国内大手ゼネコン50社の国内受注高(前年同期比)は、インフラ関連や国土強靱化関連案件の増加を背景に官公庁工事が+29.6%となった一方、民間工事では新型コロナウイルスの影響による案件の発注先送り・計画の見直し等により▲12.5%となり、全体でも▲3.8%の減少となりました。

国内事業者の動向～案件目線引下げの動き有

新型コロナウイルスの影響による受注環境の低迷が長期化するのを見据え、大手ゼネコン等では手持ち工事高の積み上げを企図して、案件規模(受注金額)や採算の目線を引下げる動きが見られ始めています。これを受け、連鎖的に中小建設事業者間でも受注競争が激化しつつあり、着工単価も下落に転じています。

今後の見通し

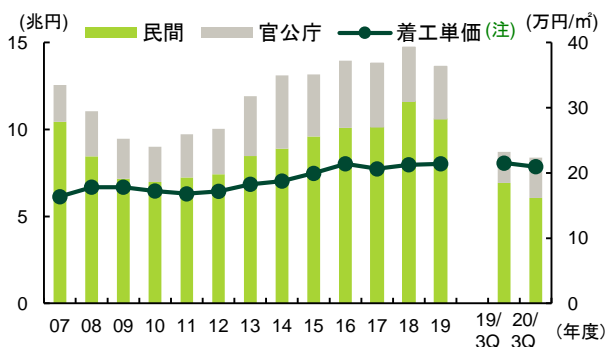
今来期の業績注視～昨年度の受注減影響が鮮明に表れる可能性

コロナ禍において民間工事を中心に受注が減少したことで、建設各社の手持ち工事高は目減りしており、2021年度以降に完工高(売上高)の減少という形で影響が鮮明に表れてくる可能性があります。加えて、厳しい業界環境が続く中、左記の通り大手ゼネコン等による採算目線引下げの動きもみられつつあることを踏まえれば、受注競争激化による事業者の損益悪化が懸念されます。

生産性向上～建設現場の効率化・省人化に向けた取組を本格化

新型コロナウイルスの影響による民間投資の縮小等により建設需要はピークアウトの兆しがみられる一方、「維持・更新」や「防災・減災」、「エネルギー・環境」等の分野では中長期的な成長を期待する声も聞かれています。かかる中、ICT技術の導入等、生産性向上や人手不足解消に資する取組に一層注力し、需要取込みに向けた体制整備を進めていくことが重要とみられます。

図表1 大手50社国内工事受注高・建築着工単価
～建築着工単価は上昇基調も受注高は減少



(注)着工単価は年度末月時点の直近3ヶ月平均

出所:国土交通省「建設工事受注動態統計調査報告(大手50社調査)」より弊社作成

図表2 ゼネコン売上高上位10社(20年度ランキング)
～手持ち工事の消化を進め、一定の売上を確保

| 順位 | 企業名 | 売上高 (億円) | 当期利益 (億円) |
|----|--------------|----------|-----------|
| 1 | 鹿島建設※ | 19,100 | 800 |
| 2 | 大林組※ | 18,600 | 940 |
| 3 | 大成建設※ | 15,300 | 820 |
| 4 | 清水建設※ | 14,850 | 610 |
| 5 | 竹中工務店 | 12,378 | 305 |
| 6 | 長谷工コーポレーション※ | 8,000 | 490 |
| 7 | 五洋建設※ | 4,930 | 185 |
| 8 | 戸田建設※ | 4,920 | 171 |
| 9 | 前田建設工業※ | 6,768 | 166 |
| 10 | 三井住友建設※ | 4,000 | 100 |

※20年度予想

出所:有価証券報告書より弊社作成

図表3 生産性向上に向けた取組事例
～大手事業者を中心に取組本格化

| 企業名 | 取組事例 |
|-------------|--|
| 大林組 | タワークレーンの自動操縦に取り組み、10年以内にあらゆるメーカーの建機を無人で動かす仕組みを整える計画 |
| 鹿島建設 | 溶接する箇所をひとなでするだけで角度や隙間を判別し速度を自動調整して柱等を溶接するロボットを導入 |
| 長谷工コーポレーション | マンションの外壁調査にMR(複合現実)を活用し、従来と比べて全体業務の約30%削減 |
| 清水建設 | センサーが溶接箇所の形状を検知し、AIが解析して適切な溶接手順を判断できる溶接ロボットを導入。500人程度の省人化が可能 |

出所:各社ニュースリリースより弊社作成